

CISPR 会議 A 小委員会 第 1 作業班(WG1) 対処方針 (案)

審議項目	審議内容	エキスパートの対応	結果
1. 開会	2021 年 11 月 9 日, 10 日	出席状況を確認する.	
2. 議事次第の承認	CIS/A/WG1(Secretary)21-02	コメント無しで承認する.	
3. 2019 年上海会議議事録確認	CIS/A/WG1(Secretary)21-01	コメント無しで対応する	
4. member 更新等の確認		日本委員の変更があれば対応.	
5. IEC 中央事務局からの情報	AC/10/2007	報告を聞く.	
6. プロジェクト			

CISPR 会議 A 小委員会 第 1 作業班(WG1) 対処方針 (案)

<p>6.1 CISPR 16-1-4 Amd.1 f2 Ed. 4.0: Site validation < 30 MHz 30 MHz 以下のサイト検証</p>	<p>a) CIS/A/989A/INF b) CIS/A/1101/DC c) CIS/A/1107/INF d) CIS/A/WG1(Kriz) 16-02 e) CIS/A/AHG1_(H.S. Keum, H.K. Um, J.K. Yang, J.H. Kim) f) CISPA/A/AHG1(Qu-Lu) 17-01 g) CIS/A/WG1/AHG1_(H.S. Keum, H.K. Um, J.K. Yang, J.H. Kim) h) CIS/A/1249/RR i) CIS/A/1250/CD j) CIS/A/1270A/CC k) CIS/A/1270B/CC l) CIS/A/1299/CD m) CIS/A/1307/CC n) CIS/A/1307A/CC o) CIS/A/1315/Q p) CIS/A/1318/RQ q) CISP/A/1323/CDV r) CIS/A/WG1(Secretary)21-02 s) CIS/A/13xx/RVC</p> <p>進捗状況の報告 (概要) 30 MHz 以下におけるサイト検証方法の提案</p>	<p>本 CD 文書は、30 MHz 以下の無線妨害波測定に用いる試験サイト評価法を、CISPR 16-1-4 に追加することを提案している。正規化サイトアッテネーション測定法 (NSA 法) 及び参照サイト法 (RSM) が提案されている。</p> <p>本 CD 文書の主な内容は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 試験サイトとして備えるべき要件 周囲雑音の条件など 2) 試験サイトの評価方法 (NSA 法, RSM) 周波数間隔, アンテナの高さ, 配置方法など 3) NSA 法, RSM の不確かさバジェット 拡張不確かさの計算例 (NSA : 1.9dB, RSM : 2.0dB) 4) NEC を使った NSA 理論値の計算方法 計算コード, 計算結果の例 (数表) <p>我が国は 30 MHz 以下の放射妨害波測定について、CISPR 規格化することに賛成であり、本 CD の主内容である 30MHz 以下の試験サイト評価法の他、アンテナ校正法、妨害波測定法の規格づくりに主体的に参画している。</p> <p>1st CD に対し、我が国は基本的には賛成の立場であり、下記の点についてコメントを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 電磁界シミュレータ (NEC) を使った NSA の計算において、磁界アンテナ係数を計算するためのコードが間違っている。 • その他、軽微なミス of 修正 <p>CD に対する CC が釜山会議前に発行されたため、釜山会議審議後 CC が A バージョンを経て B バージョンで発行された。我が国のコメントはすべて受け入れられた。</p> <p>2nd CD が 2019 年 6 月 14 日に発行され、IEC CO への投票締切は 9 月 6 日である。</p> <p>また上海会議で、Deter 氏からサイト検証基準が一部の 3m サイトで満たせない事例があるので、サイトの検証基準の改定を問う Q 文書が発行されている。その結果 (A/1318/RQ), 当該 Q 文書は否決された。2nd CD に対する CC は上海会議直前の 2019 年 9 月 27 日に発行され、AHG1 にてコメントを付す作業を行った。その結果を反映し、A バージョンの CC が 2020 年 7 月 10 日発行された。また AHG1 で次のステージを CDV とすることが決定し、2020 年 9 月に</p>
---	--	---

CISPR 会議 A 小委員会 第 1 作業班(WG1) 対処方針 (案)

審議項目	審議内容	エキスパートの対応	結果
		発行された。なお先の Q 文書の否決に伴い、CDV の内容は変更せずに発行されている。我が国は、当該 CDV に対し Editorial な修正コメントを付した上で賛成投票を行った。本件の RVC は現時点 (2021/8 現在) では未発行。 本件については、将来的には Amd2 として発行される予定。	

CISPR 会議 A 小委員会 第 1 作業班(WG1) 対処方針 (案)

審議項目	審議内容	エキスパートの対応	結果
6.2 CISPR 16-1-4 Ed. 5.0: VHF LISN Specifications VHF LISN の仕様	a) CIS/A/1332/RR b) CIS/A/1333/CD c) CIS/A/WG1(Secretary) 21-02 d) CIS/A/13xx/CC 進捗状況の報告 (概要) VHF LISN の仕様の CISPR 16-1-4 への追加 (第 5 版)	本 CD 文書は、CISPR 16-1-4 第 5 版発行に向けたもので、VHF LISN に関する仕様の CISPR 16-1-4 への追加のほか、CMAD の定義の修正(3.1.7)、CMAD によるケーブルの終端から電源ケーブルを除外する修正(8.1)が含まれる。VHF LISN の記述は、定義(3.1.30)、及び電源ケーブルの終端装置として新たな 11 章 VHF-LISN (平衡型 VHF-LISN と不平衡型 VHF-LISN の技術要求を含む) の追加、付則として、JAHG6 により実施された RRT の結果報告である。 本 CD 文書での我が国の主張は主に下記の通りである。 ◆ 3.1.7: 後述の文章で AC Mains が除かれているので、ここでも除外すべき (JP-1) ◆ RRT の結果から、測定サイト間の相関性を改善するために電源ケーブルの終端インピーダンスを規定することが必要。CMAD は電源ケーブルの終端デバイスとしては不適(JP-2) ◆ 現実には ϕ が 20 以上の CMAD が販売されていないため CMAD が使用できない環境について一考すべき(JP-3) ◆ 現実では既存の伝導エミッション測定においても LISN を使用できない環境が問題になっており VHF-LISN を強制することは同じ問題を引き起こす。LISN を使用できない環境について、一考すべき(JP-4) ◆ 付則にある RRT 報告におけるコムジェネレータおよび実機測定結果から、一般機器の電源ケーブルからの放射エミッションは主に L 線、N 線の CM 電流により発生する。2 種類の VHF-LISN が提案されているが、一般の機器については平衡型 VHF-LISN が終端デバイスとして適切 (JP-5) ◆ 平衡型 VHF-LISN として 3 相電源用電源ケーブル終端デバイスも標準化すべき (JP-6) ◆ RRT の結果から、不平衡型 VHF-LISN は、DM 波源が意図的に電源ケーブルに注入される機器に限定すべき。なお現時点ではその必要性は認められない(JP-7) 現時点では本 CD に対する CC は未発行。本 WG1 で CC の対応について議論があるものと考えられるので、我が国は CD でのコメントの方針に従い、主張を行うべきである。	

CISPR 会議 A 小委員会 第 1 作業班(WG1) 対処方針 (案)

審議項目	審議内容	エキスパートの対応	結果
6.3 CISPR 16-1-6 am2 Ed. 1.2: EMC-antenna calibration < 30 MHz 30 MHz 以下の EMC アンテナ校正	a) CIS/A/1151/RR b) CIS/A/1157/CD c) CIS/A/1185A/CC d) CIS/A/1221/CD e) CIS/A/1245/CC f) CIS/A/1272/CD g) CIS/A/1288/CC h) CIS/A/1300/CDV i) CIS/A/1327/RVC j) CIS/A/WG1(Secretary) 21-02 k) CIS/A/13xx/FDIS 進捗状況の報告 (概要) 9 kHz~30 MHz で使用するループ アンテナの校正法に関する提案	2012 年バンコク会議にて、30 MHz 以下の妨害波測定に関する ad-hoc を立ち上げることが決まった。我が国からは、2013 年オタワ会議にて校正法を紹介、2015 年ストレーザ会議にて校正法の追加（規格文書の修正）を提案した。A/1157CD 及び A/1221/CD は、我が国が主導して作成した文書であり、本修正案に賛成の立場で幾つかのエディトリアルな修正に関して意見を提出した。 これに対するコメント集 CC において、我が国のコメントは全て受け入れられている。3 rd CD に対し、我が国は賛成の立場で下記のコメントを行った。 ◆ 5.2.3.2：文意の明確化のため“calibration”を追加する。 ◆ 5.2.4.2：site insertion loss の数式において用いられている A _{ATT} の定義を明確化する。 コメントはすべて受け入れられた。 2019 年 8 月 2 日配布の A/1300/CDV に対し、我が国は Editorial なコメントを付して賛成投票を行った。投票の結果は、100%賛成で可決した。現在、FDIS の発行を待っている状況である。	
6.4 CISPR TR 16-3 Ed. 4.0: CISPR technical reports	a) CIS/A/1298/DTR b) CIS/A/1310/RVDTR c) CIS/A/WG1(Secretary) 21-02	Beeckman が CISPR TR 16-3 Edition 3.2 に含める LLAS に関する背景情報とその検証についての DTR のドラフトを配布した。同 TR に対し、 4.13 Background on LLAS, validation and measurement method の節に対する記述、及び 付則 G (情報) Models and equations associated with the LLAS method の記述の修正に関する文書である。 本件は、本件は我が国より、CD を経ずに DTR を発行することに意義を唱え、まず CD が発行されることになった (CIS/A/1286/CD)。当該 CD に対する我が国のコメントはほぼ受け入れられ、各国コメントを反映した結果が CIS/A/1298/DTR で、こちらは各国の Editorial コメントがあったものの 100%で可決している。 本件は、2020 年 10 月 21 日に TR 第 4 版として発行された。TR 発行が報告されるのみの予定。	

CISPR 会議 A 小委員会 第 1 作業班(WG1) 対処方針 (案)

審議項目	審議内容	エキスパートの対応	結果
7. SC/A から WG1 に送られた事項			
7.1 A proposal for the measurement uncertainty calculation of current probe calibrations 電流プローブの校正の測定不確かさの提案	a) CIS/A/WG1(Schaefer)17-02 b) CIS/A/WG1(Schaefer)18-01 c) CIS/A/WG1 (Kriz)18-01 d) CIS/A/WG1 (Kriz)18-02 e) CIS/A/WG1(Fischer - Schaefer)19-02 f) CIS/A/WG1(Secretary)21-02 g) CIS/A/WG1(Fuji) 21-03 [Action Item 19-01] To perform measurements to corroborate Kriz data	ウラジオストック会議にて、Schaefer より、CISPR 16-1-2: Ed.2 B.7 電流プローブの校正の測定不確かさバジェットに関する新しい節の追加に対する寄与文書の説明があった。その結果、下記のアクションアイテムが設定された。 <u>Action Item 17-02: 伝導妨害に対する CISPR 規格における周波数範囲をチェックする by Chair, 期限：2017.12.31</u> <u>Action Item 17-03: 挿入インピーダンスの定義を準備する by Kriz, 期限：2018.3.31</u> <u>Action Item 17-04: 校正における不確かさバジェット表の内容を確認する by Medler/Kriz, 期限：2017.12.31</u> 上海会議における藤井氏のアクションアイテム 18-02 が次回まで延期され、左記の通り新たなアクションアイテムが設定された。次回 Web 会議ではアクションアイテムに関する寄与文書における議論に対応し、適宜意見を述べる。 <u>AI 19-01 Fujii 氏は、Kriz データと協力するための測定を行う。</u>	

CISPR 会議 A 小委員会 第 1 作業班(WG1) 対処方針 (案)

審議項目	審議内容	エキスパートの対応	結果
<p>7.2 CIS/A/1089/INF: US NC paper for discussion in Frankfurt – Additions to current revisions of standards related to measurement uncertainty calculations – 16-1-4: NSA, RSM, S_{VSWR}</p> <p>測定不確かさ計算に係る規格の現行版への追記</p>	<p>a) CIS/A/WG1(Secretary)18-03rev b) CIS/A/WG1(Donglin)16-09 c) CIS/A/WG1(Donglin)16-10 d) CIS/A/WG1(Sugiura)16-02 e) CIS/A/WG1 (Donglin)17-01 f) CIS/A/WG1 (Donglin)17-02 g) CIS/A/WG1 (Kriz)17-01 h) CISPR/A/WG1 (Meng, Ji)18-01 i) CIS/A/1303/DC j) CC to CIS/A/1303/DC k) CIS/A/WG1(Secretary)21-02 l) CIS/A/1339/DC m) CIS/A/13XX/INF n) CIS/A/13XX/Q</p> <p>[Action Item 19-02] To prepare the INF with the outcome of the DC</p> <p>[Action Item 19-03] To prepare a document with more data and to replies to the concerns of the comments of the DC</p>	<p>ウラジオストク会議では、Kriz 氏から CISPR_A_WG1(Kriz)17-01 の説明がされ、アクションアイテムが設定された。</p> <p><u>Action Item 17-06: NSA 測定の測定不確かさの計算に関する最新の統合された文書を準備する by Donglin, 期限：2018.3.31</u></p> <p>前回の上海会議では、Donglin Meng 氏より、ダイポールアンテナ、バイコンカルアンテナでのバリデーションについてプレゼン説明が実施された。</p> <p>ANSI との整合性について指摘があった (Knight 氏) . 文書 i) の DC 文書の結果より CC 文書の Observation を作成し DC 文書の前の INF を作成する. 以下のグループを形成することが決定された. メンバは, Y.Ji, D. Meng, N. Kim, J. Riedelsheimer. プロジェクトリーダーは D. Meng で, より多くのデータを含む文書を準備し, DC 文書のコメントの懸念に対処する. アクションアイテムは左記の通り.</p> <p><u>AI 19-02: 上記プロジェクトチームは, CIS/A/1303/DC のコメントに対する observation を記した INF 文書を作成. 期限：2019/10/31</u></p> <p><u>AI 19-03: D.Meng 氏は, 更なる実験データを含む文書を準備し, CIS/A/1303/DC のコメントの懸念に対処する. 期限：2020/2/28</u></p> <p>次回 Web 会議ではアクションアイテムに関する寄与文書における議論に対応し, 適宜意見を述べる.</p>	
<p>7.3 Proposal for amendment of CISPR 16-1-6</p> <p>CISPR16-1-6 にタイムドメイン測定の追加のアmendメント</p>	<p>a) CIS/A/WG1(Secretary)18-01rev b) CIS/A/WG1(Schaefer)15-01 c) CIS/A/WG1(Schaefer)16-01 d) CIS/A/WG1(Busan/Fujii, Ishigami, Tajima)18-01 e) CIS/A/WG1 (Knight)19-01 f) CIS/A/WG1(Secretary)21-02</p> <p>[Action Item 19-04]</p>	<p>ウラジオストク会議にて, Schaefer より, これまでの経緯 (タイムドメインゲーティング) が説明された。</p> <p>このプロジェクトをどのように進めるかについて議論があった。プロジェクトには日本 NMIJ の黒川氏を誘うことになった。その結果, 下記のアクションアイテムが設定された。</p> <p><u>Action Item 17-08: 議長によって提供されたアンテナ校正のためのタイムドメインゲーティングの使用に関するデータを検証できるエキスパートの連絡先情報を送信する by J.H. Kim</u></p>	

CISPR 会議 A 小委員会 第 1 作業班(WG1) 対処方針 (案)

審議項目	審議内容	エキスパートの対応	結果
	<p>To develop a model to biconicals and LPDA, Hybrid for a further TD investigation</p> <p>[Action Item 19-05] To send comments for CISPR/A/WG1(Knight)19-01 to Mr. Knight</p>	<p><u>Action Item 17-09: 議長によって提供されたアンテナ校正のためのタイムドメインゲーティングの使用に関するデータを検証する可能性を検討する by Donglin, 期限 : 2018. 10.15</u></p> <p>上海会議では、文書 e)により、Knight 氏からタイムドメイン測定による測定モデルのソフトウェア処理シミュレーション実施例のプレゼン説明が実施された。次のステップとしてモデルの高度化、ハイブリッドアンテナなど一般アンテナを想定した場合を検討する。</p> <p><u>AI 19-04: Knight 氏は、タイムドメイン法をバイコンカル、LPDA、ハイブリッドアンテナの場合のモデルに発展させる。期限 : 2020/2/28</u></p> <p><u>AI 19-05: Ishigami(JP), Fujii(JP), Knight(UK, Leader), Medler(DE), Schaefer(US), Kriz(AT)は、Knight 氏へ寄書に対するコメントを送付する。期限 : 2019/12/31</u></p> <p><u>⇒上記メンバは、CISPR16-1-6 にタイムドメイン測定の追加の Amendメントに対するプロポーザルを作成するための情報を収集する。</u></p> <p>次回 Web 会議ではアクションアイテムに関する寄与文書における議論に対応し、適宜意見を述べる。</p>	

CISPR 会議 A 小委員会 第 1 作業班(WG1) 対処方針 (案)

審議項目	審議内容	エキスパートの対応	結果
<p>7.4 Radiated emission measurements in the frequency range 18 GHz – 40 GHz</p> <ul style="list-style-type: none"> - CISPR 16-1-1: Specification of test instrumentation - CISPR 16-1-4: Specification of test sites and antennas - CISPR 16-1-5: Site validation methods - CISPR 16-1-6: Antenna calibration methods <p>18 GHz～40 GHz の放射妨害波測定</p>	<p>a) CISPR/1374/Q b) CISPR/1379/RQ c) CIS/A/1242/DC d) CIS/A/1234/INF e) CIS/A/WG1/(Schaefer)19-01 f) CIS/A/WG1/(Gorini)19-01 g) CIS/A/WG1 (Qiongyu Ye) h) CIS/A/WG1(Secretary)21-02 i) CIS/A/XXXX/INF j) CIS/A/1347/Q k) CIS/A/XXX/RQ</p> <p>[Action Item 19-06]→2019/10/31 To inform the CISPR/A Secretary to ask the Central office to officially form an ad-hoc group</p> <p>[Action Item 19-07]→2019/10/31 Collect measuring equipment specification information on ETSI</p> <p>[Action Item 19-08]→2020/3/31 To Summarize the existing specifications for Receivers, Antennas, Test Site Validation from ANSI standards in a DC</p>	<p>18GHz から 40GHz までの周波数帯における RF エミッション測定法と許容値に関する CISPR/1374/Q への各国 NC の回答が、CISPR/1379/RQ にまとめられた。それらの意見によって、CISPR は、18GHz から 40GHz までの周波数帯における放射エミッション測定法と許容値の検討を進めるべきという結果となった。</p> <p>各 NC からの回答は CISPR/S 委員会によって議論され、ウラジオストク会議において、CIS/A 委員会および CISPR/H 委員会によって本トピックの作業を開始すべきであることが決定された。</p> <p>我が国は、CISPR/1374/Q の「1. 40GHz までの妨害波許容値の導入を支持するか？」の質問に対して「No.; 支持しない。」を回答した。理由として 40GHz までの許容値導入が必要か否かを判断するための情報が乏しく干渉事例の喫緊の課題もないためである。</p> <p>また A/1242/DC に対しては、下記のコメントを行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 参考となる資料・情報及び計画される規格に関するコメント 電磁干渉を与えうる（CISPR 規格の対象となる）装置について情報収集が必要であることを再度コメントする。 <ol style="list-style-type: none"> (a) 今後普及が見込まれる 6GHz 超の新たな無線システム(5G 携帯など)の利用ケース、使用周波数、通信距離、アンテナ性能、受信機感度、通信保護比など、無線保護に必要な基本的情報収集が必要。 (b) 新たな無線システムの利用周波数や利用ケースにおいて、どのような装置が潜在的干渉源となるのか、また、実際に干渉が検知された事例などの情報収集が必要。 2. 本作業を支援するエキスパート 釜山会議において JP からは 田島氏、石上氏のアサインが挙手により確認された。その他: Nyman 氏, Kriz 氏, Schaefer 氏, Terrien 氏, Knight 氏, Griffin 氏, Gorini 氏, Trautnitz 氏, Kiwull 氏, Yu Ji 氏, Keum 氏 上海会議では、資料 e)が Shaefer 氏によって説明された。MIL-STD の資料は、CISPR/A には不適切 資料 f)は、Gorini 氏によって説明された。 	

CISPR 会議 A 小委員会 第 1 作業班(WG1) 対処方針 (案)

審議項目	審議内容	エキスパートの対応	結果
		<p>AI 19-06 により、アドホックグループ設立に向け CIS/A/1347/Q を発行。我が国は、本件に賛成し、測定装置アドホック及び測定法アドホックに各エキスパートを登録する旨回答した。</p> <p>測定装置アドホック：藤井氏，ジェド氏，三塚氏，島先氏 測定法アドホック：田島氏，原田氏，雨宮氏，長部氏，島先氏</p> <p><u>AI 19-07: アドホックグループ間で連絡先情報を共有する。メンバー：M. Terrien, W. Schaefer, B. Gorini, A. Griffin, S. Ishigami, F. Trautnitz, K. Tajima, Q. Cui, N. Li, X. Zhang, D. Meng, Q. Ye, J. Medler, A. Kriz, D. Schwarzbeck, Y. Ji, J. Riedelsheimer, J. Nyman, ⇒完了</u></p> <p><u>AI 19-08: Ms.Q. Ye は、ANSI で規定されている、アンテナ、受信機及びサイト評価に関する情報をまとめ DC 文書を作成する。⇒寄与文書配布済み</u></p> <p>次回 Web 会議ではアクションアイテムに関する寄与文書における議論に対応し、適宜意見を述べる。また各アドホックに関する議論がある可能性があるため、その点についても対応する。</p>	
8. 他の CISPR 委員会との共同作業		報告を聞き、状況を見て対処する。	
8.1 CISPR/I: Cable termination using VHF LISN VHF LISN を用いたケーブル終端	<ul style="list-style-type: none"> a) CIS/A/1219/DC b) CISPR/I/562/INF c) CIS/A/1228B/INF d) CIS/A/1239/INF e) CIS/A/1243A/INF f) CIS/A/1265/DC g) CIS/A/1294/INF h) CIS/A/WG1(Secretary)21-02 i) CIS/A/1326Q j) CIS/A/1331/RQ 	<p>Joint AHG (AHG6) における進捗報告を聞き、状況を見て対処する。</p> <p>なお、2020 年 10 月 9 日に、CIS/A/1326Q が発行され、CIS/A/1265/DC における CISPR 16-1-4 Ed.4 の修正（新しい電源ケーブル終端デバイスの追加）の賛否が問われた。我が国は、賛成投票を行っている。その結果 (A/1331/RQ)，3 か国の反対に対し 12 か国の賛成となり、RR が発行 (A/1332/RR) された。(6.2 参照)</p>	
9. 議事次第に無い議事録から生じた事項	a) CIS/A/WG1(Secretary)18-01rev	報告を聞く。	

CISPR 会議 A 小委員会 第 1 作業班(WG1) 対処方針 (案)

審議項目	審議内容	エキスパートの対応	結果
9.1 追悼		Heirman 氏, Dunker 氏, 杉浦先生の追悼	
10. その他の議題			

CISPR 会議 A 小委員会 第 1 作業班(WG1) 対処方針 (案)

審議項目	審議内容	エキスパートの対応	結果
10.1 Calibration of Impedance for V-network V ネットワークのインピーダンス 校正	a) CIS/A/WG1(Secretary)18-01rev, item 10.1 b) CIS/A/WG1(Kriz) 16-01 c) CIS/A/WG1(Hangzhou/Shinozuka, Fujii, Sugiura,)16-01 d) CIS/A/WG1(Hangzhou/Sugiura, Shinozuka)16-01 e) CIS/A/WG1 (Kriz) 18-03 f) CIS/A/WG1 (Medler, Kriz, Klink, Schwarzbeck Schaefer, Li) 19-01 g) CIS/A/WG1(Secretary)21-02 [Action Item 19-09]→2020/3/31 To draft proposal how to deal with the AMN adaptor issue	<p>前回ウラジオストク会議にて、Kriz 氏より現在議論中であり、3 月末までに文書としてまとめる旨発言があった。下記のアクションアイテムが設定された。</p> <p><u>Action Item 17-13: アクションアイテム 16-11 を実行する by Kriz, 期限：2018.3.31</u></p> <p>釜山会議では、変更・追加された内容が説明された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インピーダンス測定における基準面の定義を明確化。(終端インピーダンスの影響がある場合には開放短と短絡したインピーダンス結果から求めることも追記された)。 ・AMN アダプタの補正式 ・AMN アダプタを使用して校正を行った場合に必要となる報告書への記載内容 ・校正不確かさに記載する方法の追加 ・校正周波数ステップ。 <p>上海会議では、文献 f)より、Schwarzbeck 氏によって釜山会議のアクションアイテムの進捗について説明があった。Kriz 氏は、市場のすべての異なる AMN モデルに適しているのは金属製の垂直面だけであると述べている。</p> <p>質疑応答の末、段階を進めるにはさらなる検討が必要として、Work を継続することとなった。</p> <p><u>AI 19-09: J. Medler, A. Kriz, D. Schwarzbeck, A. Klink, Li (プロジェクトリーダーは Medler 氏) は、AMN アダプターの問題に対処する方法の提案書案を作成する。期限：2020/3/31</u></p> <p>次回 Web 会議ではアクションアイテムに関する寄与文書における議論に対応し、適宜意見を述べる。</p>	

CISPR 会議 A 小委員会 第 1 作業班(WG1) 対処方針 (案)

審議項目	審議内容	エキスパートの対応	結果
<p>10.2 A new concept of the standard antenna using two homogeneous antenna 2 つの均質アンテナを用いた標準アンテナの概念</p>	<p>a) CIS/A/WG1(Secretary)18-01rev, item 10.2 b) CIS/A/WG1 (Jong-Hyuk Lim, Bo-Weon Lee) 16-01 c) CIS/A/WG1 (Hangzhou/Sugiura, Fujii)16-01a d) CIS/A/WG1 (Sugiura)17-01d e) CIS/A/WG1 (J.H Lim, M.J Jeong, B.W Lee, Nam-Kim,) 17-01 f) CISPR/A/WG1(Busan/Fujii, Ishigami, Tajima)18-02 g) CISPR/A/WG1(Fujii, Ishigami, Tajima)19-02 h) CIS/A/WG1(Secretary)21-02 i) CIS/A/WG1(Fuji) 21-03</p> <p>[Action Item 19-10] To prepare a DC on two homogeneous antenna method</p>	<p>前回ウラジオストク会議にて、杉浦氏による 2 アンテナ法を CISPR 16-1-6 に付加する提案を田島氏が説明した。 2 つの細分箇条を追加: 7.4.1.1.3, 7.4.1.2.3 (Two antenna method) 本件に関し、韓国から具体的なデータがあるので提示したいとの提案があった。下記のアクションアイテムが設定された。 <u>Action Item 17-14: CIS/A/WG1 に 2 つのアンテナの同一性のデータを提出する by Kim, 期限 : 2017.12.31</u></p> <p>CISPR/A/WG1(Busan/Fujii, Ishigami, Tajima)18-02 について石上より説明があった。 ・ TAM と 2 アンテナ法の校正結果を示し、 +/-0.2dB の範囲で一致しており均質アンテナであることを説明。 ・ Calculable Horn アンテナは同軸変換機と数値解析ができるホーン部分との組み合わせであることを説明。 ・ このことから、Standard Antenna と 2AM は区別して議論を進めるべきと説明。 議論の結果、Standard Antenna と 2 アンテナ法は区別して議論を進めることは了承を得た。16-1-1 に追加を検討する。</p> <p>上海会議では、藤井氏から CISPR/A/WG1(Shanghai/Fujii, Ishigami, Tajima)19-01 に沿って前回からの追加情報、補足事項について説明があった。 用語として、Identical antenna か Homogenous antenna のどちらを使用すべきか、Identical のクライテリアの数値を示すべきなどの意見が出され、各 NC へ DC 文書で確認することとなった。 藤井氏が DC 文書案を作成する。</p> <p><u>AI: 19-10: Fujii 氏は、2 つの均質アンテナを用いた標準アンテナの概念に関して、次のステップを次回会議までに提供する。済</u></p> <p>次回 Web 会議ではアクションアイテムに関する寄与文書における議論に対応し、適宜意見を述べる。</p>	

CISPR 会議 A 小委員会 第 1 作業班(WG1) 対処方針 (案)

審議項目	審議内容	エキスパートの対応	結果
10.3 Proposal of Compact-Standard Antenna Method(C-SAM) C-SAM 法の提案	a) CIS/A/WG1(Secretary)18-01rev, item 10.5 b) CIS/A/WG1 (J.H Lim, M.J Jeong, B.N.Kang, B.W Lee, Nam-Kim,) 17-01 c) CISPR/A/WG1_ (J.H Lim, M.J Jeong, J.W Park, S.W Park, B.W Lee, T.K Oh, and N. Kim) d) CIS/A/WG1(Secretary)21-02 e) CIS/A/1340/DC f) CIS/A/13xx/INF g) CIS/A/13xx/Q [Action Item 19-11]→2019/12/31 To prepare a DC	<p>前回ウラジオストク会議にて、韓国の Kim より C-SAM について寄与文書の説明があった。</p> <p>12 月末には MU や RRT の結果を含め提案を提出する。下記のアクションアイテムが設定された。</p> <p><u>Action Item 17-15: コンパクトスタンダードアンテナ法 (C-SAM) に関する文書を不確かさバジェットとラウンドロビントのテストデータと共に準備すること. by Kim, 期限: 2018.7.30</u></p> <p>上海会議では、N.Kim 氏から、CISPR/A/WG1_ (J.H Lim, M.J Jeong, J.W Park, S.W Park, B.W Lee, T.K Oh, and N. Kim) に沿って釜山会議のアクションアイテム(18-06 C-SAM 法における不確かさバジェット案)についての進捗説明があった。各バジェットより求めた拡張不確かさで 0.90 dB である。</p> <p>CISPR 16-1-6 は現在 CDV ステージであるため、NWIP に関する DC 文書を発行し、各 NC からの意見聴取をすることとなった。Kim 氏が DC 文書案を策定する。</p> <p><u>AI 19-11:</u> <u>Kim 氏は、C-SAM 法の提案の DC 文書案を作成する。</u></p> <p>次回 Web 会議ではアクションアイテムに関する寄与文書における議論に対応し、適宜意見を述べる。</p>	

CISPR 会議 A 小委員会 第 1 作業班(WG1) 対処方針 (案)

審議項目	審議内容	エキスパートの対応	結果
10.4 Proposal to add Calculable Loop antennas into CISPR 16-1-5 and CISPR 16-1-6	a) CISPR/A/WG1 (Liu, Meng)18-02 b) CISPR/A/WG1(Busan/Fujii, Ishigami, Tajima)18-03 c) CISPR/A/WG1(Liu, Meng, Huang) 19-03 d) CIS/A/WG1(Secretary)21-02 e) CIS/A/1341/DC f) CIS/A/1342/DC g) CIS/A/13xx/INF h) CIS/A/13xx/Q [Action Item 19-12]→2020/5/31 To prepare a two DCs for one CISPR 16-1-5 and a second for CISPR 16-1-6	ウラジオストック会議では、 a) Liu 氏から Balum を用いたループアンテナの校正方法の説明が行われた。Meng 氏が欠席のため、特にコメントなし。 b) CISPR/A/WG1(Busan/Fujii, Ishigami, Tajima)18-03 石上氏が説明を実施：NICT が開発した計算可能なシールドループアンテナを説明。 結果：JP はさらに情報を提出し次の議論に進める。 規格化に向けた動きは無かった。 また上海会議では、文書 c)が Liu 氏によって説明された。 Calculable Loop Antenna に関する寄与は、CISPR 16-1-5/6 に挿入する場所がないので、AI 18-12 自体を削除することが藤井氏より提案され、了承された。 <u>AI 19-12: Liu 氏は、2つの DC 文書が作成する。最初の DC は CISPR 16-1-5 の更新提案について、2 番目の DC は CISPR 16-1-6 の更新提案について。</u> 次回 Web 会議ではアクションアイテムに関する寄与文書における議論に対応し、適宜意見を述べる。	
10.5 CALTS Compliance - Acceptance Tolerance for Frequency and Height Scan	a) CIS/A/WG1(Gassner-Medler)19-01 b) CIS/A/WG1(Secretary)21-02 [Action Item 19-13] To prepare a corrigendum	CISPR 16-1-5 Ed.2.0 2014-12 の周波数と高さの両方のスキンの許容範囲の値は、CISPR 16-1-5 Ed.1.1 2012-06 と比較して値の半分であり、半分の値は正当ではなく、実際には適用されないという主張から、上海会議では寄与文書が提出された。 資料 a)より、Medler 氏から CISPR/A/WG1(Gassner-Medler)19-01 に沿って説明があり、CISPR 16-1-5 におけるトレランスに関わる数値 (Tolerance for Frequency and Height Scan) の修正が提案された。Ed. 2.0 および Ed 1.1 はタイプミスとであり、まや相互参照が間違っているため、修正する必要がある。これに対し正誤表を発行する。	

CISPR 会議 A 小委員会 第 1 作業班(WG1) 対処方針 (案)

審議項目	審議内容	エキスパートの対応	結果
		<p><u>AI 19-13: Medler 氏は, CISPR 16-1-5 Ed.2.0 の正誤表を作成する</u></p> <p>次回 Web 会議ではアクションアイテムに関する寄与文書における議論に対応し, 適宜意見を述べる.</p>	
<p>10.6 Maintenance of CISPR 16-1-1 Ed. 5.0: Table 14 Test pulses N. 2 & 3</p>	<p>a) CIS/A/WG1(Mian)19-01 b) CIS/A/WG1(Secretary)21-02</p> <p>[1] Mario Monti, Elena Puri and Massimo Monti, “Inconsistency in CISPR 16-1-1 performance tests for disturbance analyzers”, in Proc. EMC Europe 2018, Amsterdam, The Netherlands, Aug. 27-30, 2018, pp. 477-481.</p> <p>[2] Carlo Carobbi, Franco Milan, Nicolangelo Palermo, “On the alleged inconsistency in CISPR 16-1-1 performance tests for disturbance analyzers” in 2019 IEEE International Symposium on Electromagnetic Compatibility, Signal & Power Integrity (EMC+SIPI)</p> <p>[Action Item 19-14]→2020/3/31 To prepare a paper to be circulated within WG1</p>	<p>不連続ディスターバンスアナライザの検証試験における矛盾の主張が, 最近の論文[1]で指摘されている. 具体的には, 標準の CISPR 16-1-1 で定義されているテスト 2 および 3 は, クリックの定義と一致しないことが判明しているという主張で, 下記の提案を行っている.</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ パルス 2&3 を評価するために動的なしきい値を使用する場合, 10.2 に CISPR 14-1 で述べたものと同様の注記を追加することを提案. さらに[2]に記載されている内容に従って正しい設定デルタレベルを決定. ➤ IF 包絡線の移動平均の場合, 移動平均による元の波形の歪みがクリックの持続時間の正しい評価を実行できるかどうかを確認するために, 新しいテストパルスが必要. <p>上海会議において, 10.6 は新規事項である. 資料 a)について, Milan 氏が欠席のため, Gorini 氏が代理で説明. CISPR 16-1-1 Ed. 5.0: における Table 14 Test pulses N. 2 & 3 の変更提案に関して, Milan 氏をリーダーとする検討体制に Medler 氏が加わることになった. メンバは J. Medler, B. Gorini 及び F. Milan 各氏.</p> <p>2020 年 3 月末までに, 変更内容を明確にした DC 文書案を作成する.</p> <p><u>AI 19-14: Milan 氏及び Medler 氏は, DC 文書案を作成し, WG1 に回覧する. (未回付)</u></p>	

CISPR 会議 A 小委員会 第 1 作業班(WG1) 対処方針 (案)

審議項目	審議内容	エキスパートの対応	結果
		次回 Web 会議ではアクションアイテムに関する寄与文書における議論に対応し、適宜意見を述べる。	
10.7 Interpretation Sheet to CISPR 16-1-1 Ed.5	a) CIS/A/WG1(Gandolfo)19-01 b) CIS/A/WG1(Secretary)21-02	10.7 は新規事項のため、前回会議で対処すべきアクション項目はない。 上海会議では、資料 a) (イタリア NC からの寄与文書) を Gorini 氏が説明、アンテナのオプティカルリンクに関わる光ケーブルの規定に関する提案があった。CISPR 16 シリーズのどの部分が影響を受けるかは不明なので、提案を再検討する。 結論として、Gorini 氏が Interpretation Sheet 案 を検討する。 次回 Web 会議では寄与文書があれば議論に対応し、適宜意見を述べる。	
11. 次回会議の場所と日程		報告を聞く。	
12. 閉会			